

'83

1月

No. 160号

迎春



《鹿部村村民憲章》

1. 話し合いのある明るい家庭をつくりましょう。
1. 元気にはたらき楽しい職場にしましょう。
1. きまりをまもり互いの立場を尊重しましょう。
1. スポーツに親しみたくましい心とからだをきたえましょう。
1. 自然を愛し郷土の文化を育てましょう。

希望に輝く新春を迎えて

鹿部村長

川村秀次



村民の皆様、明けましておめでとございます。

希望に輝く昭和五十八年の新春を皆様と共に迎えることができたことを、心からお慶び申し上げます。

昨年は、村政の執行につきまして村民の皆様のかたかならぬご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

「一年の計は、元旦にあり」ということわざもございますように村民の皆様は、新春を迎え新しい生活設計をたて新たな目標に向けて進む決意をされたことと存じます。

私も、昭和四十八年二月に村長に就任し、今年で十年目の年を迎

えることになりました。この節目の年にあらためて村政をお預りする責任と使命の重大さを肝に銘じ、

村政の執行に全力を傾注する覚悟を一層新たにしておるところでございます。

十年を顧りみするに、リハビリ問題、保安林問題の解決を始め、大岩生改センター、シシベ生活館、鹿部会館、本別会館、出来潤会館等の地域における会館の建設、老人いこいの家の建設、しかべ幼稚園の開設、中央公民館の建設、鹿部中学校の全面改築、消防庁舎の建設、村民公園の開設、鹿部本別両漁港の整備、折戸川改修の着工及び村総合計画の策定等、又、その間には開基百年を迎える等多くの事業を実施して参ったところであります。

現在は永年の懸案でありました山村広場（村民総合グラウンド）の建設に着手し、昭和六十年度の完成に向けて着々と村づくりを進めているところでございますが、オイルショックに端を発した世界的な経済低迷の波が当村にも押し寄せ、依然として景気の回復は思うにまかせないきびしい情勢にあります。国においても来年度は、今年度予算より5%削減する初のマイナスシリーリング（前年度予算

実績を下回る概算要求枠）の緊縮予算であり、それに追従する道、村も同様の予算編成にならうかと思ふ次第であります。

しかし、この困難な時代にこそ全力を傾け、これを如何に乗り切るかが行政を託されている者の課題であり、責務でもあると思っております。

昭和五十七年は、当村においては大きな災害もなく、平穏裡のうちに暮れましたが、村政においては村民の皆さんの切望していた村民総合グラウンド（山村広場）の第一期工事として野球グラウンドの完成を、又村民公園の一角にボーリングした温泉は、幸いにも七十二度で毎分百二十リットルの湧出量があり、目下漁組のさけふ化事業に使用しております。今後この湯の多方面にわたる利用によってこれからの村づくりに明るい灯をともした訳であります。

ここで改めて昭和五十八年を展望するとき、先に申し上げましたとおり超緊縮型の国家予算の編成や、臨調答申による行政改革の断行、又年々厳しくなる国際問題等幾重にも厳しい諸条件が山積しており、内外の情勢は非常に難しい時代を迎え、どれひとつをとってみても将来に向って明るくなる子測がつけ難く、そういう意味で「不透明な時代」であると思っております。

しかし、徹底した歳出の見直しをはかり、経費を節減し、新しい時代に即応した地域づくりをめざして水産業の振興発展、教育の振興充実、そして社会福祉の向上、更には生活環境の整備等の事項を可能な限り進めて参る考えであります。

新年度においては、山村広場（総合グラウンド）の第二期工事としてテニスコート、橋梁を、又振興補助を導入しての陸上競技場を設置、又鹿部本別両漁港の整備についても強く国へ要望し、その実現にむけて最大の努力をして参りたいと思ひます。

新しい年を迎えるにあたり、所信の一端を申し上げ、みなさんの一層の御協力をお願いいたしますと共にご多幸と御健勝を祈念し、年頭のあいさつといたします。

昭和五十八年元旦

明けまして

おめでとう

ございます

鹿部村役場

村長 長川村秀次
助役 役浜村正夫
収入 役松崎繁四郎

総務課 長岡崎英夫
民生課 長佐々木成克
税務課 長盛田栄一

企画・管財課 長橋本健蔵
産業課 長古城保弘
建設課 長松本豊勝

水産課 長松川猛
水道課 長相沢正士
ミンク公営課 長熊谷秋雄

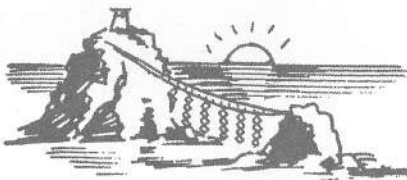
鹿部村教育委員会

教育委員長 山崎篤也
同職務代理人 山科久幸
委員 坂井幸雄

教育 長 長谷川勝雄
学校教育課 長 桜田政治
社会教育課 長 土谷文男

鹿部消防署

署長 長小玉健
外職員一同



年頭のことば

鹿部村議会議長

船橋 竹治郎



昭和五十八年の年頭にあたり、
議会を代表し謹んで新年のごあい
さつを申し上げます。

ここに希望にあふれる新春を迎
えることができました事を心から
お慶び申し上げます。

昨年、国の行政改革、財政再建、
景気の低迷などによって地方自治
体を取巻く情勢は非常に厳しい時
代に入っておりますが、これを侮
ることなく、又萎縮することなく
私共議員は村長共々誠実に忠実に
そして実行の三実主義を旨として
鹿部村総合計画に基づき漁業の
振興を始め陸上産業の推進、生活
環境の整備、教育文化の向上等積
極的に推進して参ったつもりでお
ります。おかげをもちまして大過
なく越年することができましたの

も、これひとえに村民各位のご支
援とご協力の賜であると心から感
謝の意を表する次第であります。
しかしながら住民生活の安定、
福祉増進を図るには今後幾多の重
要課題が山積しております。

地方財政はながびく景気の低迷に
より、昭和五十七年度において地
方交付税の大幅な減額等を余儀な
くされ、明年度においてはさらに
巨額の財源不足を生じることが必
至であり、重大な危機に直面して
おります。このような厳しい情勢
下においては、地方自治体も当然
これに即して減量経営を余儀なく
されるわけですが、こういう時こ
そ創意工夫を凝らし行政の効率
的、合理的見直しを図りながら住
民のための福祉を向上させること
が地方自治の本来の姿であると思
え、理事者、議会の各々の分限を
わきまえながらその機能を逸脱す
ることのないよう、然も施策の推
進にあたっては一身同体となって
先人の築かれた遺産を正しく守り
新しい時代に対応する村政の確立
に自らの姿勢を正し、議員ともど
も理事者を中心とし全力を傾注し
て参る所存でありますので、村民
各位の一層のご支援ご協力を賜り
ますようお願い申し上げます。昭和五
十八年が皆様にとりまして幸せな
年でありますようお願い致します。
新年のごあいさつと致します。



つつしんで
新年の
御祝詞を
申し上げます

謹賀新年

鹿部村議会

議長 船橋 竹治郎
副議長 吉 武 夫

総務常任委員長 西谷 正 昭
同 副委員長 小田 輝 次

同 委員 小山 忠 一
同 委員 千 葉 光 夫

同 委員 川 村 太 一
同 委員 渡 部 良 次

同 委員 川 口 常 行
同 委員 高 田 春 吉

同 委員 毛 利 武 蔵
同 委員 吉 武 夫

同 委員 松 川 義 雄
同 委員 吉 田 武 雄

同 委員 棟 方 健 太 郎
同 委員 高 橋 浅 雄

同 委員 佐 藤 友 一
同 委員 外 職 員 一 同

同 委員 議 会 事 務 局 長 長 幡 隆 志

同 委員 鹿 部 村 監 査 委 員 大 沢 喜 代 治

同 委員 監 査 委 員 高 橋 浅 雄

鹿部村選挙管理委員会
委員 長 古 城 猶 吉
同職務代理者 清 水 観 由
委員 庭 田 浄 蔵
事務局長職員一同 細 越 秀 三 郎

鹿部村農業委員会
会 長 小 山 忠 一
同職務代理者 山 口 繁 秋
委員 千 葉 光 夫
委員 高 本 鉄 雄
委員 高 橋 浅 雄
委員 原 田 政 雄
委員 小 田 正 彦
委員 松 川 義 雄
委員 佐 藤 正 利
委員 伊 藤 徳 次 郎
委員 中 野 徳 次 郎
委員 渡 部 良 次
委員 事務局長職員一同

鹿部村固定資産評価審査委員会
委 員 古 村 敏 男
委 員 清 水 広 舞
委 員 高 田 銀 作

年頭に当って



北海道知事 堂垣内尚弘

明けましておめでとうございませす。

昭和五十八年の新春を道民のみなさんとともに迎えることができましたことを、たいへんうれしく存じます。

早いもので、私が道民のみなさんのご支持を得て道政をお預りしてから三期十二年になりますので、この新年は私にとって、とりわけ意義深く、感慨ひとしおのものがあります。

顧りみますと、この十二年間は、激動の時代でしたが、私は、「道民のための明るい道政」を基本とし、北方の風土に、根ざしたたくましさとるおいのある北海道づくりのために全力を傾注して参りました。この間、幾多の困難に直面しましたが、さいわい道政を着実に前進させることができましたのも、ひとえに、道民のみなさんご理解とお力添えのためものであり、深く感謝申し上げる次第であります。

今日、国際的には、資源の節約や経済の不振と通商摩擦の顕在化

などがあり、国内においても、景気の浮揚と国家財政の再建が緊要な課題となっております。

このような中で、本道は景気の低迷や雇用問題、稲作の大幅な減反や漁業の国際的な規制強化、国鉄地方交通線の改廃や道開発庁の統廃合問題などが相次いで発生し、厳しい情勢下におかれております。

しかし、本道は、数々の困難を克服しながら、着実に経済の基盤を固めつつあり、空港、港湾、幹線道路の整備がすすむなか、昨年は、築設中だった石狩湾新港に第一船が入港、苫小牧東部工業基地に有力企業が進出、また、北方圏諸地域との交流も一層活発化し、さらには、六十四年完全国体の準備作業も順調に行われるなど将来に向って大きく前進しております。

一方、全国民の悲願である北方領土返還についても世論の大きな高まりをみましたことは、心強い限りであります。本年も全国的に流動的かつ厳しい情勢が続くものと思われませんが、技術革新の急速な進展と、国際間の相互依存関係が強まるなかで、わが国としては堅実な経済成長を維持しながら、世界経済の安定にも積極的に貢献すべき年となることを私は期待しております。

北海道は豊かな土地、水などの資源に恵まれ、わが国社会経済の安定的な発展に大きく貢献し得る

地域であります。既に長期的発展の基礎的条件も逐次整いつつあり、この一月には、道民の永年の夢である青函トンネルの先進導坑が貫通し、本州と陸続きとなります。このような条件整備を背景に、本道がわが国の最大の食糧供給地域、新しいタイプの工業地域、教育研究の場、北方圏を軸とする国際交流の拠点として日本の将来にいつそう重要な地域となることは疑いありません。このため私は、「二十一世紀は北海道の時代である」と確信しております。

さて、私は残る任期中、私に課せられた責務を全うするため全力を傾けてまいります。申すまでもなく、道政は悠久であり、道民とともに歩み、前進をつづけていくべきものであります。道民のみなさんにおかれましては、今こそ本道発展の基礎を築いた先人の労苦に改めて思いを致し、その中から培われてきた「進取」「不撓不屈」の開拓者精神と自主自立の気概をもつて、明るく豊かな郷土、北海道の建設に向って、お互い手をたずさえ力強くまい進されることを期待いたします。

年頭に当たり、私の所感の一端を申し述べるとともに、道民のみなさんのますますのご健勝とご多幸をお祈りして年頭のごあいさつといたします。

昭和五十八年元旦

年頭のあいさつ



渡島支庁長 片山 忠

明けましておめでとうございませす。

希望に輝く昭和五十八年の新春を、皆様とともに、お祝いできますことを心からお喜び申し上げます。

石油危機に端を発した我が国の経済は、いくぶん低成長にも傾れてまいりましたが、財政再建、行政改革など大きな課題を抱え、依然厳しい環境におかれております。こうした情勢の中にあつて、道は長期的視点に立つて、施策の緊急性や重要性を十分考慮し、より以上の行政効果が、発揮されるよう努めているところでです。

昨年の管内をみますと、農業は全道的には天候に恵まれ、稲作が回復したのに対し、一部地域において七月下旬の低温等による障害により期待した収穫を得られず、漁業も日本海ます、いか釣業の不振とこんぶ価格が安価で、数量、金額とも大きく落ち込むなど、悲観的な結果に終ったことは誠に残念であり、影響を受けられた農漁

家の方々に対し心からお見舞いを申し上げます。

しかし一方、農業では省エネルギー的施設栽培による端境期野菜の集団産地の育成、水産業ではさけのふ化増殖事業と同じようにクローズを人為的に放流するなど、従来の方法から一歩ふみだした考えをしなければならぬ時代を迎えており、行政を含めた自助努力により新しい時代に対応してゆくことが必要となっているのも事実であります。

クリーンエネルギーの森地熱発電の本格操業や、将来に計りしれない影響をもっている青函トンネルの先進導坑の貫通と今日の厳しい経済環境下になりながらも新しい息吹の中、本道発展の拠点として脚光をあびてきた管内は道立高校が、四月に二校開校し、教育行政が一段と推進される等道行政は着実に成果を上げておりますが、しかし地域開発は、なんと申しましても、住民の皆様の合意と協力がなくては不可能です。

限らない郷土愛と人間優先を基調に先輩が築いた不屈の開拓精神とたくましい創造性を原動力として豊かで住みよい郷土をつくるため、今後とも最善の努力をいたしますので、皆様におかれまして一層の御精進をお願いいたします。年頭のごあいさつといたします。

のりよりの
おとしよみなさんへ

老人医療制度が改正され

医療費は「無料」から 「一部負担」になります。

老人保健法の成立により、昭和五十八年二月一日から七十才以上（六十五才以上六十九才までの寝たきり老人を含む）のおとしよりの医療は、すべて新しい制度のもとに運営されます。

今までは、七十才以上の老人医療費は無料でしたが、老人保健制度が発足したことにより、外来受診の場合は、一ヶ月につき四百円を、入院の場合は、一日につき三百円を二ヶ月間支払うことになりました。

この老人保健法のねらいは、保健医療制度が始まって以来、年々医療費がふえ続け、昭和四十八年老人医療費の無料化が行なわれるにつれその増嵩が著しく保険財政を悪化させ、特に加入率の高い国保財政へのしわ寄せが大きき、当村においても昭和五十六年度では、七十才以上の方の加入率が八・五%、医療費の占める割合では、三八・八%という状況にあります。このようなことから老人医療費については、国保に限らず全保健者が公平に負担すべきであるという考え方から、保険者が各々負担することになりました。

健康なお年よりの増えるだけなら日本の社会にとつてすばらしいことですが、何らかの病気をかかえたお年よりの少なくないのも事実です。

これからは、今までの医療中心の保険制度から、健康な老人社会をつくるために四十才以上の方を対象に予防、治療、リハビリテーションというように総合的な医療保険制度を成立するために次のような項目により保健事業が実施されます。

- 一、健康手帳の交付
 - 二、健康教育
 - 三、健康相談
 - 四、健康診査
 - 五、医療
 - 六、機能訓練
 - 七、訪問指導
- なお、お年よりのみなさんが、昭和五十八年二月一日から医療機関にかかるときは、「健康手帳」と「老人医療費受給者証」を同時に受付窓口に表示して受診することになります。
- 「健康手帳」と「老人医療費受給者証」は、一月中に交付されます。（民生課・国保係）

おとしよりが受けられる医療



老人保健でお医者さんにかかる場合、「健康手帳」と保険証を医療機関の受付窓口に表示し、一部負担金を支払えば診療を受けることができます。ただし、場合によっては、かかった医療費を一時支払い、あとで市区町村へ、その費用を請求すると、その必要ありと認めた場合に限り払いもどしを受けることができます。

健康手帳の正しい取り扱いを



■この手帳は希望すれば40歳以上の人にも交付されます。あなたの健康管理にお役立てください。

健康手帳は70歳（65歳の寝たきり老人）以上の人に村から交付され、医療機関で診療を受けるとき、老人保健で治療が受けられることを証明する資格証明書です。

また、老後の健康状態を記録し、適切な診療をめざすための健康診査の結果の記録、および健康の保持と増進をめざした記事がもりこまれています。いわば老後もすこやかに過ごすための自己管理手帳です。

壁隣ものごとつかす夜さむ哉 燕村

独りわび住んでいると、お隣のごとごとという物音が、つい耳につきま。燕村ほどの人が、また「我を厭ふ隣家寒夜に鍋を鳴らす」とも詠んで、自分にあてつけに音を立てているのでは……と神経をとがらせています。

暮らし科学

- 5 -

聞こえない騒音

生活騒音あるいは近隣騒音と呼ばれる、わたしたちの身の回りに日常生ずる物音は、お互い気になり始めると、クモの巣に捕らえられたようなもので、時には深刻な対立やいさかい、果ては悲惨な事件につながる例さえ少なくありません。

困ったことに、「うるさい」と感ずるのは必ずしも音の大きさだけではなく、その人その人の主観に左右されるもの。耳元でクチャクチャとガムをかむ音、ポタポタとしたたる水道の水もれ、履物を引きずる足音……など、かえって小さい音ほど気になって仕方ない場合もあります。

近所どうし、エチケットを守りながら、許容しあつて、にこやかに暮らしてゆかねばならぬわけですが、つい心配りを忘れてしまうのが超低周波。

音は空気の振動によって伝わります。超低周波も空気を振動させますが、周波数が低い（20



ヘルツ以下）ため、人間の耳には音としてとらえられません。しかし、耳の鼓膜は音と同じように振動を受け止めます。

主な発生源は、くみ上げポンプや浄化槽などのモーター、ふろがまの重油バーナー、セントラルヒーティングのボイラーなどです。

これら超低周波の人体への影響はまだ解明し尽くされていませんが、人によっては頭痛、吐き気、肩こり、不眠症、食欲減退などにつながるといわれます。油断しがちなこの「聞こえない騒音」にも留意して、振動の大きい生活機器は整備や防振対策に努めたいものです。

＝完成が待たれる

山村広場 (総合グラウンド)＝

—着々と進む村づくり—



総工費八千四百万
円で野球グラウンド
テニスコート等

村民総合グラウンドは、山村振興法により「振興山村」として国の指定をうけての補助をうけて実施されているもので、第一期（昭和五十七年度）、第二期（昭和五十八年度）、第三期（昭和六十年）の工期により、総工費八千四百二十万円で野球場（第一多目的広場）、テニスコート、環境整備又、振興補助による陸上競技場（第二多目的広場）を計画図のように予定しております。

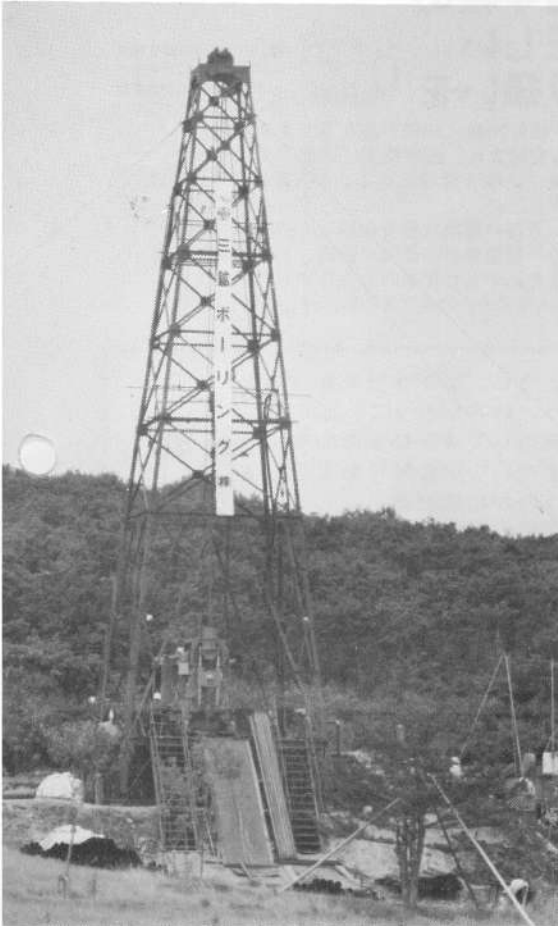
今年度は、第一期工事として、野球グラウンドを三千三百万円の工事で実施完了しました。

72°Cの温泉が出る
ふ化場への利用、
多方面にわたる利
用を検討！

温泉ボーリングは、総工費三千七百三十万円で七月二十日村民公園の一角に掘られました。深さは千メートルで、七十二度の温泉が毎分百二十リットル自噴しています。

現在は、漁業協同組合のさけふ化事業に利用されています。

将来は、この温泉を多方向に利用し、村づくりを進めるよう検討しています。

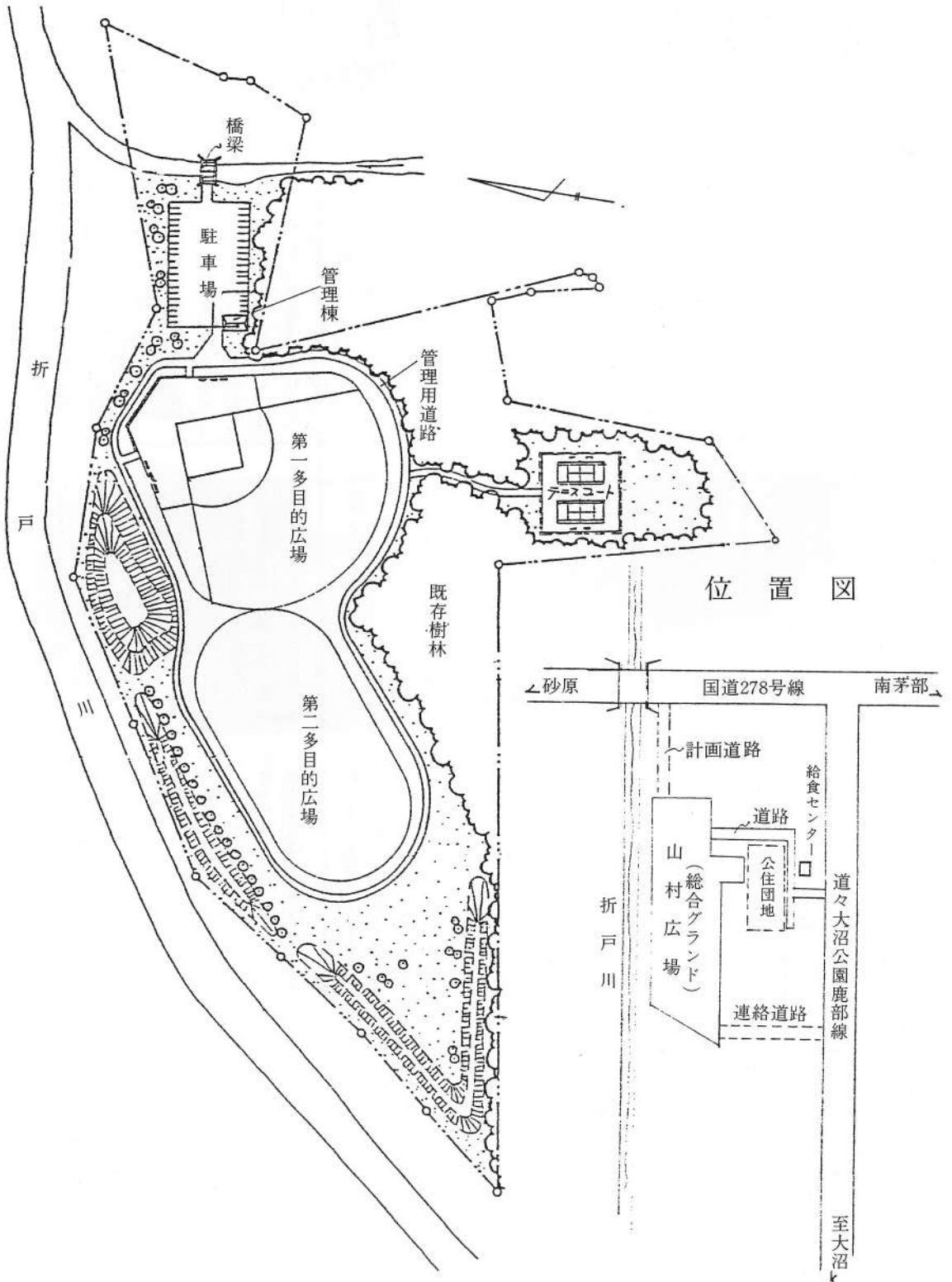


ボーリング工事

72°Cで
毎分
120 ℓ
の温泉



鹿部村山村広場計画図



ことしの抱負

ことしは亥(いのしし)年。十二支のしめくくり十二番目の年です。そこで亥年生まれで、村内に住んでいる方々の中から、無作為に抽出して今年の抱負等をひとつひとつ伺ってみました。

みなさんは、それぞれ新鮮な気持ちで新しい年を迎えられたことと思いますが、あなたにとつて今年の決意のほどは……？

今年の希望



五年一組 皆川 江里子

わたしは、去年からみると、ちよつぱりおとなになり、べんきょうも、むずかしくなり、新しい友だちもふえました。うれしいこと、

今年私の年



五年二組 小田 ひろみ
今年、私の年です。

くやしいこと、たのしかったこと、かなしかったこといろいろあります。今年、うれしいことを、もつとふやしたいと思う。それから、ろうかの歩き方が、わるいので、ぜつたいなおしたい。

べんきょうも、不まじめなので、こうゆうこともなおしたい。

それから、一・二・三・四・五年生に、ちゆういするぐらいの、ゆうきを持ち、五年生のときに、二組、三組に、べんきょうをおくれたぶん早く、すすんでいき、下級生のみほんに、なるぐらいの、六年生に、なりたいと思う。

『いのしし』辞書で調べてみました。ひとつのことを最後までやり通す気しようと書いてありました。私はいいい年に生まれたと思います。私には、二つの願いがあります。一つは、お年玉をむだ使いたないで、いっぱいためて、一度でいから福袋を買ってみたいことです。二つめは、大きくなったら保母さんに、なることです。

イノシシ年



五年三組 川村 琢也
今年、イノシシ年。

家事、育児に頑張る



主婦 金沢 洋子

生まれ育った鹿部で、今年で三度年の「年女」を迎えました。歳月が流れるのは誠に早いものです。

そのためには、学校で習う勉強をいっしょうけんめいやることです。それから、小さい子どもと、やさしい心で、遊んだり、体をそう、したいからです。

私は、これからも、がんばってやりたいと、思います。

ぼくの年

今年には特に、勉強も、スポーツも、がんばらなければならぬ。

お母さんに、
「イノシシにかんけいすることない。」

と聞いてみると、
「強じよつぱりとか、向こうみずで、つっぱしたら、かえってこない。」
と言った。

強じよつぱりな所は、ぼくにあ

昨年をふり返ってみますと、あまりにも悲しく、暗いニュースの多いにおどろき、昔とは全く変わりつつある世の中に、一主婦として不安を覚えないではいられません。

そんな私にも、我が家の一人息子、子がささやかな「やすらぎ」を与えてくれました。それは、鹿部クラブのラッパーズの一員として全道少年野球大会に出場し、一家みんな

っている。その強じよつぱりな所が悪い。

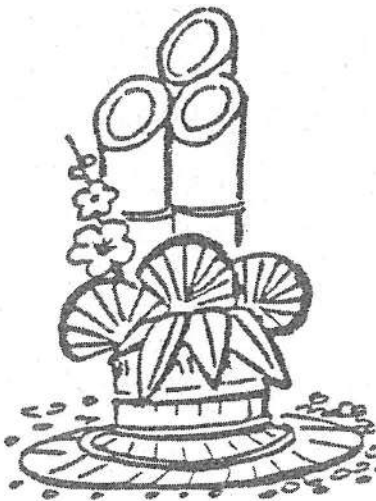
自分がまちがっていたらあらため、良かったら、つっぱる。良い強じよつぱりもある。でも、悪い強じよつぱりもある。だから、そういう事を、一つ一つあらため、反省すべき年でもある。

十一年間の中で悪かった点をなおしていき、また来年から、スタートしようと思う。

応援に行つたことです。

今年、その息子も六年生になり、クラブラッパーズ最後の年を迎えますが、ぜひ今年も渡島大会に優勝し、全道大会へと駒を進めてもらいたいと希望しています。

何はともあれ、「イノシシ」は私の年なので一生懸命主婦の知恵を発揮し、家事に、子育てに頑張つてよい年にしたいものです。



教師という仕事に誇りを持って



教員 長 沼 政 春

年の初めに、今年こそは自分の納得のいく仕事をしたいと思うが年末になり、その年を省みると、大へん辛い評価になってしまいうのが毎年のことでした。「きょうしかなければならないことを明日にのばすな」と、言うこと

今年こそは



漁業 佐々木 克三郎

今年、私の迎える五回目の「亥年」、満六十才を迎える年です。年々厳しくなる漁業環境の中で、昨年は、ホタテ漁も稚員の成長が思うにまかせず、その影響により

はわかっていながら、自分の努力不足と、意志の弱さから、情性に流されてしまっていたのでした。教師をしていて、教室で子ども達の顔を見ながら、「この子ども達ひとりひとりの可能性を十分引き出してやれない」、自分の力量不足に思い悩み、申訳けないと思う日の多い日々でした。

今年こそは、父母の方々に對して、「確かに、子どもさんをお預りしました」と、胸をはって言える自分になれるよう研鑽を積んでいきたいと思うのです。自分自身で、教師になってよかったという充実感を味わうことができ、教師という仕事に誇りもって毎日を送れる自分になりたいと思います。

かんばしくなく、又コンブ漁も量は昨年に比べて水揚げされたものの単価的な問題もあり、豊漁とはいえない状態でした。しかし、そういう厳しい中で、我家では、息子に嫁が来たことは明るいでき事であり、一安心した事でもありました。

ホタテ漁に関しては、新造船やいろいろな設備の費用で依然累積赤字は解消されておらず厳しい情勢ではありますが、現在は稚員の成長も順調で、今年こそは」と思っています。幸い鹿部には、「栽培センター」

ホタテの水揚げをふやしたい



漁業 佐藤 誠一

今年、私のエトの「亥年」で、三回目を迎える三十六才になろうとしています。

我家では、ホタテ養殖で明け、ホタテで暮れた昭和五十七年でした。幸いに去年は、村内では水揚げも多い方であり、「稚貝とり」も順調で、今年も大いに期待しているところです。やはりホタテ漁は、手数をかけないといふホタテは取れないようです。我家でも成貝は全て「耳づり」をやっていますが、最盛期の春先は、一家三人では手が足りずアルバイト等をお願いしてやっています。

コンブ養殖も去年は、海水の温という専門的な機関があるので、もっと積極的に指導をうけ、又勉強会等も漁組、村主催で開催してもらって「ホタテ漁」を軌道にのせていきたいものです。

度の関係でよい品質のものとはれず、いい漁ではありませんでした。今年、私の年でもあり、ホタテ漁は、何といつてもいい稚貝をとることだと思っているのです。丈夫な稚貝をとり、水揚げを伸ばしたいと思っています。

悔いのない一年にしたい



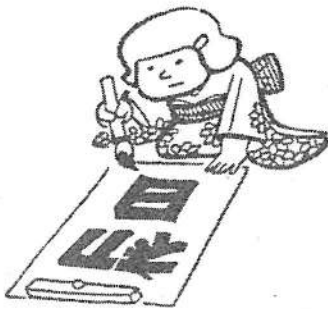
リハビリ職員 盛田 あけみ

一九八三年、亥年。私は、その年女の中の一人です。亥年生まれの私は、まさに「猪突猛進」と言う言葉とおりの性格ではないかと思えます。高校卒業後、鹿部へもどりはや

四年がすぎ、まさに「歳月人を待たず」の感があります。今年、仕事と趣味をうまく両立させたいと思っています。高校時代夢中でやったバレーボールが忘れられず、今も函館のクラブに入っておりますが、年々練習をサボりがちで、鹿部、函館の距離を感じるようになりました。今年、このクラブも最後の一年とするつもりで真面目に練習し、全道、全国大会へ出場できるよう、又青春の良い思い出になるよう頑張るつもりです。

また、仕事の面においても、地域住民との交流が大変重要な職場ですので、少しでもその橋わたしができるよう初心を忘れず努力したいと思えます。

鹿部村も年々若者が増加しつつありますが、活気のある村づくりは、私たち若者が頑張らなければならぬと思えますので、職場に、地域の諸活動に頑張る悔いのない一年にしたいと思っています。





「出初め式」には、年の初めに
行なうさまざまな「事初め」の意味
がありますが、一般には、消防出
初め式がよく知られています。

わが国の本格的な消防組織の始
まりは、江戸の明暦の大
火（一六五七年）の翌年
に徳川幕府が設けた、江
戸の消防組織「定火消（
じょうびけし）だといわ
れています。

この定火消が、万治二
年（一六五九年）一月四
日に江戸上野の東照宮前
で、初めての顔見世出初め式を行
いました。この日にちなんで東京
では明治時代には、一月四日に、
その後大正五年からは一月六日（
途中十五日になったこともありま
す）に行われるようになり、現在

君かやわ



西村 宗



出初め式

に至っています。
いまや新春を告げる風物詩の一
つとなった出初め式——毎年、各
自治体で、それぞれ独自の行事が
行なわれています。
なかでもいちばん規模の大きい
のが東京の出初め式
かつて、火事は「江戸の華」と
いわれただけあって、消防庁職員
のほかには江戸消防記念会
のメンバーが参加し、「
はしこ乗り」や「木やり」
など、江戸時代から伝わ
る伝統的な火消しの妙技
などが披露されます。
こうした江戸の風物
を懐かしむ観客のなかに
は、いわゆるカーマニア
もかなりいます。ポンプ車、化学
消防車、屈折放水塔車などの車両
や、消防艇、ヘリコプターなど最
新鋭の装備を施した乗り物が一堂
に会するからです。
伝統的な技法と現代の科学の粋



と——出初め式は、若者にとって
も大きな魅力のようです。
当村においても毎年一月一日に
消防出初め式が行なわれております。

広報係から



村民のみなさん明けましておめ
でどうぞございます。
昨年は、広報「しかべ」をこ愛
読いただきましてありがとうございます。
光陰矢の如しのことわざの
とおり、歳月の流れは早く、八十
年代も四年目を迎えることになり
自らの無力と無能を知らされるよ
うです。
今年のエトは「亥（いのしし）」
ですが、「猪突」は避け、充分に
状況を判断して、「猛進」して参
りたいと思います。
新しい年を迎えて、みなさんに
愛読してもらええる広報「しかべ」
の紙面づくりに頑張る覚悟を一層
新たにしております。
みなさんのご協力をお願い申し
上げます。
また、広報「しかべ」に対する
ご意見、ご感想、ご希望などがあ
りましたら、どうぞお気軽にお申
し出下さい。《企画管財課広報係》

1月の救急病院

1月1日	国立療養所	北海道第1病院	(七飯町)	☎0138(65)2525
1月2日	尚仁堂	診療所	(大野町)	☎0138(77)8105
1月3日	望ヶ丘	病院	(七飯町)	☎0138(65)8111
1月9日	澤田	医 院	(鹿部村)	☎(7)2105
1月15日	西谷	医 院	(七飯町)	☎0138(65)2330
1月16日	渡辺	院 美ヶ丘病院	(大野町)	☎0138(77)8761
1月23日	付々	科 院	(七飯町)	☎0138(65)3520
1月30日	安田	医 院	(七飯町)	☎0138(65)7341

— 診療時間は午前9時～午後4時 —